

## 研究室の女将になって

大隅典子（東北大学大学院医学系研究科 教授）

### 仕事の内容とやりがい

東北大学において脳神経系の発生発達に関する研究を展開しています。2004-2010年は科学技術振興機構CREST「ニューロン新生の分子基盤と精神機能への影響の解明」研究代表者として研究を展開させることができました。また2007年からは東北大学グローバルCOE「脳神経科学を社会へ還流する研究教育拠点」拠点リーダーを務め、大学内の脳神経科学者やそのタマゴ達をとりまとめています。さらに、2006年より東北大学女性研究者育成支援推進室副室長として振興調整費による「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」を推進し、同年、女性研究者育成支援態勢整備の促進に貢献したとして、「ナイスステップな研究者2006」に選定されました。「スピード・変化・自由」のある毎日を送っています。

### 仕事と家庭とのバランス

シングルなので、超悪いバランスです（苦笑）。でも、自分の子供がいらない分、研究室の子供達（＝学生さんやポスドクさん）に、たっぷり愛情を注いでいます。ときにはコワイお母さんですが……。

### 進路決定のきっかけ

私にとっては両親ともに生物学者でしたので、家の中では「科学する」のが普通のことでした。成りたいと思って小さいときに憧れていた職業には、アナウンサー、雑誌の編集者、建築家、料亭の女将などがあり、大学進学時点で「直接、人を治せるのは素晴らしい！（しかも虫歯は放っておいても治らない）」と思って歯学部を受験しましたが、結局、大学院に進むときに「発生生物学」を志しました。小さなネズミの胎児の赤い心臓がドキドキしているのを見て、求めていたものに出会った気がしました。

### 進路選択に対するメッセージ

大学進学において「理系だから文系の科目は重視しなくてよい」と考えることは大きな間違いです。理系の仕事でも、論文を書いたり、学会で発表したりするのに、言語力（コミュニケーション力）は大いに必要ですし、世界史や地理を知らなかったら国際会議で出会った外国の方とお話できる接点が少なくなってしまうでしょう。なるべく多様な人たちと接点ができるように「糊しろ」をつくっておくことが大切です。「この科目が得意だから」ではなく「将来、どんな仕事をしたいか」によって進路を決めてほしいと願っています。

#### <大隅典子（おおすみのりこ）プロフィール>

- 1984年 東京医科歯科大学歯学部卒
- 1988年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
- 1988年 東京医科歯科大学歯学部助手
- 1996年 国立精神・神経センター神経研究所室長
- 1998年 東北大学大学院医学系研究科教授（現職）
- 2006年 東北大学総長特別補佐（男女共同参画担当）
- 2008年 東北大学ディスティンクイッシュメントプロフェッサー
- 第20期、21期日本学術会議第二部会員

